

## 令和7年度第2回公立大学法人東北公益文科大学評価委員会議事要旨

日 時：令和8年2月17日（火）13:30～14:30

場 所：県庁502会議室 ※オンライン併用

出席者：

委員／出口毅 委員長、丸山和昭 委員長代理※、遠田瑞希 委員※、鈴木まゆみ 委員※、  
前田律子 委員（※はオンライン参加の委員）

県／小中章雄 総務部長

庄内広域行政組合／村岡修 事務局長

東北公益文科大学／伊藤守 公立大学法人東北公益文科大学理事長予定者  
神田直弥 学長

事務局／五十嵐裕彦 県公立化準備室長、佃吉彦 室長補佐 ほか

議 事：

公立大学法人東北公益文科大学第1期中期計画（案）

概 要：

### 1 開会

### 2 挨拶（県 小中総務部長）

- ・ 挨拶後、事務局から、委員6名のうち5名が出席し、評価委員会共同設置規約に定める定足数（委員の過半数）を満たしている旨の報告。
- ・ 併せて、議題である中期計画について、欠席の鈴木隆一委員からあらかじめ意見の提出を受けており、後ほど紹介する旨の説明。

### 3 議事

公立大学法人東北公益文科大学第1期中期計画（案）

- ・ 第1期中期計画（案）の説明に先立ち、中期計画に関する手続き等を事務局から説明。
- ・ 第1期中期計画（案）について神田学長が説明を行い、事務局が鈴木隆一委員から事前提出のあった意見について報告したのち、質疑応答、意見交換を行った。
- ・ 審議の結果、中期計画（案）を適当とする意見を設立団体に提出することが了承された。

### <主な質疑応答、意見>

#### 【超学際的教育研究の方向性について】

公益学と国際学が超学際の実践のベースとしてあると思っているが、今後強化していくデータサイエンス教育は、横串のような位置づけなのか、それとも学問分野として進化させるのか、今後の展開について学長自身の考えをお聞きしたい。（出口

委員長)

<回答>東北公益文科大学 神田学長

現状は、横断的に全学生が一定水準に到達することを目指している。一方で、A I・D Xの推進には高度な専門性を持つ人材も必要であり、エキスパートの育成も必要と認識している。公益学部のメディア情報コースの拡充で対応可能か、新たなプログラムが必要かは、地域ニーズも踏まえながら、令和11年度に向けて検討していく。

地域のデジタル人材育成は大きな課題であり、文系から理系へのシフトという国の動向も踏まえ、地域の大学がけん引していくという役割も期待されていると考える。本学との連携も検討いただきたいと思っている。(出口委員長)

### 【教職員体制等の充実について】

意欲的な計画であり、この形で地域との連携も含めて進めていただければと感じた。一方で、卒業生との連携や産学官連携プラットフォーム、各種プログラムの実施を進めるには、加配等も含めた、一定の教職員体制の充実が必要ではないかというのが率直な印象である。特に地域連携を担うコーディネーターや、地域向け広報を担う専門人材が必要になるのではないか。大学として、こうした取組を支える人材育成・配置の構想があるか伺いたい。併せて設立団体側にも、地域の高等教育の発展を、大学と連携して考える人材・ポストの安定配置が重要であり、必要な加配等も検討いただきたい。(丸山委員長代理)

<回答>東北公益文科大学 神田学長

産学官連携プラットフォームについては、産学官連携コーディネーターの採用を予定している。高大接続の推進等を行うアドミッション・オフィサーについては、現状でも配置している。一方で、広報については体制整備が必要と認識している。魅力ある大学づくりを進める上で、取組の推進に加えて発信も重要であり、整備について進め方を検討する。

<回答>事務局 五十嵐県公立化準備室長

公立化に向けて、県・2市3町・大学において準備委員会を組織して議論を深めてきた。設立団体である県と2市3町が、財政面も含めて大学を支えていくということは共通認識である。その中で、どのように、充実した財政支援や人的支援を行っていくかを不断に検討していかなければならない。機能強化に伴い教員増等が必要となる場合、地方財政措置等の枠組みも踏まえ、裏付けとなる財源を含めて総合的に検討する必要がある。また、職員体制についても、専門性を持つ職員が必要となる可能性があり、持続可能な体制の構築を検討する必要がある。

### 【企業による大学教育への積極的支援体制の構築について】

企業は工場見学、就業体験、探究学習支援、講師派遣、施設・物品貸与など多様な形で大学教育を支援できるため、参画企業を募り組織化してはどうか。(鈴木隆一委員(事前提出意見))

<回答>事務局 五十嵐 県公立化準備室長

産学官連携プラットフォームも活用しながら検討していく。

### 【卒業生が公益大に還元する仕組みの構築について】

公益大卒業生として、庄内地域で福祉分野の事業所に勤務している。勤務先の老人保健施設に、公益大の学生が実習に来てやり取りをすることがあるが、このような形で、卒業生が公益大に還元する仕組みがまだ少ないと感じている。大学・地域・卒業生が良い循環で回る仕組みづくりが重要だと考えている。(遠田委員)

<回答>東北公益文科大学 神田学長

卒業生は在学生にとって身近なロールモデルでもあり、講話の機会の設定やキャリア科目等での連携を検討する。

### 【公開講座について】

公益大は、地域に学び地域を元気にする大学ということで、地域住民に大学を身近に感じてもらうことは重要であり、公開講座を活用する余地があると感じる。講座の受講ターゲットを子育て世代等にも広げ、地域が大学の価値を実感できる機会として充実させてはどうか。(鈴木まゆみ委員)

<回答>東北公益文科大学 神田学長

公開講座については、受講対象者の拡大も含め、具体的に何ができるかなど、意見交換しながら、より魅力的なものになるよう検討したい。

### 【高大接続について】

高大接続は、高校ごとに要望や必要な連携の内容が異なると考えており、産学官連携プラットフォームとは別に、学校ごとに連携可能な部分を探る取組をお願いしたい。また、令和8年度入学者選抜の実施状況を見て、今後も地元から入学できるのか、という声も聞こえている。県内入学者の確保に向けた取組を、入学者選抜における地域枠の活用も含めて引き続きお願いしたい。(鈴木まゆみ委員)

<回答>東北公益文科大学 神田学長

高大接続については、既存の取組を継続しつつ、できるだけ要望に応えられるよう連携のあり方を検討する。

### 【インターンシップについて】

インターンシップは、学生のキャリア形成だけでなく、地域理解という観点でも

有効であり、計画上の位置づけや時期も含め、地域理解・課題発見科目と同様の扱いとして展開することも考えられるのではないか。(鈴木まゆみ委員)

<回答>東北公益文科大学 神田学長

インターンシップについては、学生が地域に入り、地域への理解を深めるためにどのような取組が必要なのかも含め、検討したい。

#### 【卒業生からの意見聴取について】

卒業後に「この大学で学んで良かった」と学生が思えるような教育研究の場にする必要があると考えている。そのためには、卒業生から教育研究の内容について意見を聴く場を設けるなど、計画の策定や改善に反映する取組を推進してはどうか。(前田委員)

<回答>東北公益文科大学 神田学長

卒業後3年を経過した卒業生に対するアンケート調査を実施しており、教育課程の検討の参考としている。御意見も踏まえ、対応を検討したい。

#### 【外国人材の導入について】

福祉分野でも外国人材の導入が進んでおり、学生時代から国際的視点を養うことは、地域で働く上でも重要だと考えている。(遠田委員)

<回答>東北公益文科大学 神田学長

専門分野における外国人材の増加等への対応についても、授業科目の追加や教育課程の変更等にも関連すると思うので、今後産学官連携プラットフォームの中で、地域の現状やニーズというのを明らかにしていきながら、意見交換していきたい。

#### 【公益を学ぶ機会の充実について】

日本赤十字社やあしなが育英会等の活動紹介、講演会・セミナー参画等を通し、困っている人を救う意義を学ぶ機会を設けてはどうか。(鈴木隆一委員(事前提出意見))

<回答>事務局 五十嵐 県公立化準備室長

授業への位置づけ、課外活動など様々な実施形態が考えられるため、大学等と連携しながら、具体的な取組の可能性を検討していく。

#### <本日の協議に関する理事長予定者のコメント>

委員の皆様から貴重な御意見を頂きお礼申し上げます。東北公益文科大学は、私立大学として25年間、地域とともに歩んできたが、4月から公立化により新たなステージに立つ。地域に求められる大学として、地域から日本・世界へ人材を発信する大学であることが重要であり、その実現のための第一歩が中期目標・中期計画だと認識している。

一方で、実現のハードルが高い計画であるとも正直感じている。特に、産学官連携プラットフォームが肝であり、地域と大学とをコーディネートする人材が鍵となる。地域課題を把握・分析し、教育研究に結び付け、実践の結果を学問にフィードバックする循環を、大学として実践していきたい。

また、データサイエンス・AI教育は重要であり、企業の最先端人材の知見も取り入れる必要がある。県出身者の人材も活用しながら教育に努めたいと考えている。今後とも御指導をお願いしたい。(伊藤理事長予定者)

#### 4 その他

#### 5 閉会

以上